

早稲田大学人間科学学術院

人間総合研究センター

2024 年度日本財団助成事業報告

こども家庭ソーシャルワーカー養成研修の開発、  
実施、評価に関する調査研究報告書

令和 7（2025）年 8 月



早稲田大学



# 目 次

第1章	こども家庭ソーシャルワーカー養成研修の開発	1
第2章	こども家庭ソーシャルワーカー養成研修の実施方法	7
第3章	こども家庭ソーシャルワーカー養成研修の評価	12

# 第1章 こども家庭ソーシャルワーカー養成研修の開発

## 1. 講義科目と演習科目の実施方法

こども家庭ソーシャルワーカー指定研修の実施方法について、講義科目 33 時間分は事前に講義の様子を撮影し、受講者が任意のタイミングで視聴可能となるオンデマンド形式とした。演習部分については、対面での受講を重要視し、対面演習を 43.5 時間、Zoom によるオンラインライブ演習を 24 時間として構成した。

### 【対面演習とオンライン演習の役割分担】

- ・ 設定されている授業時間数が長い科目（7.5 時間）は重要科目と捉え、対面形式とした。
- ・ 理念や哲学、価値など、本講座の「大切な魂」を伝える科目、グループワークなどで受講生同士の学び合いが必要な科目を対面形式とした。
- ・ 対面で行うことが必要だと判断した科目を決定してから講師を選定。

### 【指定研修（100.5 時間）】

- ・ オンデマンド講義（33 時間）
- ・ 対面演習（43.5 時間）
- ・ Zoom オンラインライブ演習（24 時間）

## 2. 講師の調整

こども家庭ソーシャルワーカー指定研修の内容を充実させるために、西日本こども研修センターあかしに協力していただき、各科目で適任の講師へ依頼し、講師の調整を行った。

### 【講師の選定の留意事項】

- ・世界のトレンドや最新の知見を学ぶことができる講師であること。
- ・各分野での最前線で活躍している講師であること。
- ・当事者や当事者に関わる研究者であること。
- ・子どもの権利の視点を重視していること。
- ・必要に応じて研究者と実践者による複数名で講師を構成すること。

### 【講義講師一覧】 < >：ゲストスピーカー

#### 1:こどもの権利擁護

長瀬正子（佛教大学）

#### 2:こども家庭福祉分野のソーシャルワーク専門職の役割

徳永祥子（立命館大学・早稲田大学）

< 安發明子（在パリソーシャルワーカー養成校 AFRIS 顧問） >

#### 3:こども家庭福祉Ⅰ（こども家庭をとりまく環境と支援）

姜 恩和（目白大学）

4:こども家庭福祉Ⅱ（保護者や家族の理解）

高林 学（龍谷大学）

遠藤朋子（徳島県中央こども女性相談センター）

三木 馨（西日本こども研修センターあかし）

5:こども家庭福祉Ⅲ（精神保健の課題と支援）

加藤 雅江（杏林大学）

6:こども家庭福祉Ⅳ（行政の役割と法制度）

鈴木秀洋（日本大学）

7:こどもの身体的発達等、母子保健と小児医療の基礎

上野昌江（四天王寺大学）

三木崇弘（高岡病院 医師）

<有村大士（日本社会事業大学）>

8:こどもの心理的発達と心理的支援

増沢 高（子どもの虹情報研修センター）

9:児童虐待の理解

岩佐嘉彦（いぶき法律事務所 弁護士）

<杉山 春（ルポライター）>

10:少年非行

堀井智帆（元福岡県警少年育成指導官）

11:社会的養護と自立支援

上鹿渡和宏（早稲田大学）

永野 咲（武蔵野大学）

12:貧困に対する支援

李 炯植 (Learning for All)

13:保育

宮本雄司 (早稲田大学)

澤田佐知子 (社会福祉法人あゆみの会)

萩原康子 (社会福祉法人あゆみの会)

14:教育

岡安朋子 (早稲田大学)

中條桂子 (昭和女子大学)

時田綾子 (中野区)

15:こども家庭福祉とソーシャルワークⅠ

(多様なニーズをもつこどもや家庭へのソーシャルワーク)

畠山由佳子 (神戸女子短期大学)

藤林武史 (西日本こども研修センターあかし)

16:こども家庭福祉とソーシャルワークⅡ

(こどもの安全確保を目的とした緊急的な対応に関するソーシャルワーク)

久保樹里 (日本福祉大学)

渡邊 直 (千葉県中央児童相談所)

17:こども家庭福祉とソーシャルワークⅢ

(地域を基盤とした多職種・多機関連携による包括的支援体制の構築)

橋本達昌 (児童家庭支援センター 一陽)

八木安理子 (同志社大学)

18:こども家庭福祉とソーシャルワークⅣ (組織の運営管理)

中垣真通 (子どもの虹情報研修センター)

市原眞記 (静岡県中央児童相談所)

### 3. 対面演習実施会場の調整

こども家庭ソーシャルワーカー指定研修について、全国で受講できることが重要であると考え、東京都の早稲田大学会場だけでなく、福井県越前市の社会的養育総合支援センター 一陽会場、徳島県の徳島文理大学会場、兵庫県姫路市の豊岡短期大学会場の4会場で実施する方針として、関係者間で調整を行った。

また、対面演習の6日間を4つのパターン設定し、4会場で実施した。

#### 【対面演習6日間の4つのパターン】

- ・週末（土日）2日間×3回
- ・平日3日間×2回
- ・3連休3日間×2回
- ・連続6日間（平日4日間＋土日2日間）

#### 【実施会場】

- ・＜東京都＞早稲田大学会場【週末（土日）2日間×3回】
- ・＜福井県＞社会的養育総合支援センター 一陽会場【平日3日間×2回】
- ・＜徳島県＞徳島文理大学会場【3連休3日間×2回】
- ・＜兵庫県＞豊岡短期大学会場【連続6日間（平日4日間＋土日2日間）】



#### 4. 日本ソーシャルワークセンターへの研修実施機関としての認定申請

研修を実施するにあたり、日本ソーシャルワークセンターから研修実施機関として認定を受ける必要があるため、必要な書類を準備し申請を行った。

①定款

②登記事項証明書

③財務諸表

④研修実施年度における事業計画書

⑤研修実施年度における収支予算書

⑥実施する研修の実施要項

【様式1】研修認定申請書

【様式2】申請要件及び添付書類の確認チェックリスト

【様式3-1】指定研修 講師一覧表

【様式4】講師要件確認調書

## 第2章 こども家庭ソーシャルワーカー養成研修の実施方法

### 1. 演習実施における方針

こども家庭ソーシャルワーカー指定研修の演習実施において、受講生同士のネットワークが形成することも意図して構成した。共に学び合うことで相互理解が深まること、場を共有することの価値を体感できることを意識した内容とするとともに、受講生にも意識しながら受講するように伝えた。

・また、演習講師は、演習内容やタイムスケジュールを記載した「演習企画シート」を作成し、他科目の講師と共有することにより、理念や教授方法の共有を図った。さらに、今年度の演習実践方法をもとに、今後、研修実施機関が増えていくことによる講師の増加を想定し、「演習企画シート」を継承していくことにより、持続可能な演習実施方法を構築した。

演習内容としては、試験対策として実施するのではなく、実践に役立つ内容を中心に取り組んだ。

### 2. 研修日程

演習について、対面演習は、4会場（早稲田大学会場、社会的養育総合支援センター一陽会場、徳島文理大学会場、豊岡短期大学会場の4会場それぞれ別日程で実施した。

Zoom オンラインライブ演習は、早稲田大学会場と社会的養育総合支援センター一陽会場で合同実施、徳島文理大学会場と豊岡短期大学会場で合同で実施した。

オンデマンド講義配信期間、オンラインライブ演習・対面演習開催日程	
A日程:社会的養育総合支援センター 一陽 会場【福井県】	
<b>オンデマンド講義</b> 9月1日(日)～1月31日(金) ※各科目、オンラインライブ演習、対面演習受講前に視聴すること。	
オンラインライブ演習(リアルタイム)【Zoom】	参集型の対面演習(6日間)【一陽 会場】
	<b>9/11(水)</b> 10:30-17:30 「こども家庭福祉分野のSW専門職の役割」 <b>9/12(木)</b> 9:00-17:30 「こどもの権利擁護」 <b>9/13(金)</b> 9:00-17:30 「こども家庭福祉とSWⅠ(多様なニーズをもつこどもや家庭へのソーシャルワーク)」
<b>10/2(水)</b> 19:30-21:00 「保育」 <b>10/9(水)</b> 19:30-21:00 「貧困に対する支援」 <b>10/16(水)</b> 19:30-21:00「こどもの身体的発達等、母子保健と小児医療の基礎」 <b>10/19(土)</b> 9:00-12:00 「こども家庭福祉Ⅲ(精神保健の課題と支援)」 <b>10/23(水)</b> 19:30-21:00 「こども家庭福祉Ⅰ(こども家庭をとりまく環境と支援)」 <b>10/30(水)</b> 19:30-21:00 「こども家庭福祉Ⅳ(行政の役割と法制度)」 <b>11/2(土)</b> 9:00-10:30 「教育」 <b>11/6(水)</b> 19:30-21:00 「こどもの心理的発達と心理的支援」 <b>11/9(土)</b> 13:00-17:30 「こども家庭福祉とソーシャルワークⅣ(組織の運営管理)」 <b>11/13(水)</b> 19:30-21:00 「少年非行」	
	<b>11/26(火)</b> 9:00-12:00 「こども家庭福祉Ⅱ(保護者や家族の理解)」 13:00-17:30 「社会的養護と自立支援」 <b>11/27(水)</b> 9:00-17:30 「こども家庭福祉とSWⅡ(こどもの安全確保を目的とした緊急的な対応に関するソーシャルワーク)」 <b>11/28(木)</b> 9:00-17:30 「こども家庭福祉とSWⅢ(地域を基盤とした多職種・多機関連携による包括的支援体制の構築)」
<b>12/7(土)</b> 13:00-17:30 「児童虐待の理解」	

オンデマンド講義配信期間、オンラインライブ演習・対面演習開催日程	
B日程:徳島文理大学<徳島キャンパス> 会場【徳島県】	
<b>オンデマンド講義</b> 9月1日(日)～1月31日(金) ※各科目、オンラインライブ演習、対面演習受講前に視聴すること。	
オンラインライブ演習(リアルタイム)【Zoom】	参集型の対面演習(6日間)【徳島文理大学 会場】
	<b>9/21(土)</b> 9:00-17:30 「こどもの権利擁護」 <b>9/22(日)</b> 9:00-17:30 「こども家庭福祉とSWⅡ(こどもの安全確保を目的とした緊急的な対応に関するソーシャルワーク)」 <b>9/23(月祝)</b> 9:00-16:00 「こども家庭福祉分野のSW専門職の役割」
<b>9/28(土)</b> 10:45-12:15 「貧困に対する支援」 <b>10/5(土)</b> 9:00-10:30 「教育」 14:00-15:30 「保育」 16:00-17:30 「こどもの身体的発達等、母子保健と小児医療の基礎」	
	<b>10/12(土)</b> 9:00-17:30 「こども家庭福祉とSWⅠ(多様なニーズをもつこどもや家庭へのソーシャルワーク)」 <b>10/13(日)</b> 9:00-12:00 「こども家庭福祉Ⅱ(保護者や家族の理解)」 13:00-17:30 「社会的養護と自立支援」 <b>10/14(月祝)</b> 9:00-17:30 「こども家庭福祉とSWⅢ(地域を基盤とした多職種・多機関連携による包括的支援体制の構築)」
<b>10/19(土)</b> 9:00-10:30 「こども家庭福祉Ⅰ(こども家庭をとりまく環境と支援)」 10:45-12:15 「こどもの心理的発達と心理的支援」 16:00-17:30 「少年非行」 <b>11/2(土)</b> 13:00-16:00 「児童虐待の理解①」 16:15-17:45 「こども家庭福祉Ⅳ(行政の役割と法制度)」 <b>11/9(土)</b> 13:00-16:00 「こども家庭福祉Ⅲ(精神保健の課題と支援)」 16:15-17:45 「児童虐待の理解②」 <b>12/7(土)</b> 13:00-17:30 「こども家庭福祉とソーシャルワークⅣ(組織の運営管理)」	

オンデマンド講義配信期間、オンラインライブ演習・対面演習開催日程	
C日程:早稲田大学<早稲田キャンパス> 会場【東京都】	
<b>オンデマンド講義</b> 9月1日(日)～1月31日(金) ※各科目、オンラインライブ演習、対面演習受講前に視聴すること。	
オンラインライブ演習(リアルタイム)【Zoom】	参集型の対面演習(6日間)【早稲田大学 会場】
	<b>9/28(土)</b> 9:00-16:00 「こども家庭福祉分野のSW専門職の役割」 <b>9/29(日)</b> 9:00-17:30 「こども家庭福祉とSWⅢ(地域を基盤とした多職種・多機関連携による包括的支援体制の構築)」
<b>10/2(水)</b> 19:30-21:00 「保育」 <b>10/9(水)</b> 19:30-21:00 「貧困に対する支援」 <b>10/16(水)</b> 19:30-21:00「こどもの身体的発達等、母子保健と小児医療の基礎」 <b>10/19(土)</b> 9:00-12:00 「こども家庭福祉Ⅲ(精神保健の課題と支援)」 <b>10/23(水)</b> 19:30-21:00 「こども家庭福祉Ⅰ(こども家庭をとりまく環境と支援)」 <b>10/30(水)</b> 19:30-21:00 「こども家庭福祉Ⅳ(行政の役割と法制度)」 <b>11/2(土)</b> 9:00-10:30 「教育」 <b>11/6(水)</b> 19:30-21:00 「こどもの心理的発達と心理的支援」 <b>11/9(土)</b> 13:00-17:30 「こども家庭福祉とソーシャルワークⅣ(組織の運営管理)」 <b>11/13(水)</b> 19:30-21:00 「少年非行」	
	<b>11/16(土)</b> 9:00-17:30 「こどもの権利擁護」 <b>11/17(日)</b> 9:00-17:30 「こども家庭福祉とSWⅠ(多様なニーズをもつこどもや家庭へのソーシャルワーク)」
<b>12/7(土)</b> 13:00-17:30 「児童虐待の理解」	
	<b>12/21(土)</b> 9:00-17:30 「こども家庭福祉とSWⅡ(こどもの安全確保を目的とした緊急的な対応に関するソーシャルワーク)」 <b>12/22(日)</b> 9:00-12:00 「こども家庭福祉Ⅱ(保護者や家族の理解)」 13:00-17:30 「社会的養護と自立支援」

オンデマンド講義配信期間、オンラインライブ演習・対面演習開催日程	
D日程: 豊岡短期大学<姫路キャンパス> 会場【兵庫県】	
<b>オンデマンド講義</b> 9月1日(日)～1月31日(金) ※各科目、オンラインライブ演習、対面演習受講前に視聴すること。	
オンラインライブ演習(リアルタイム)【Zoom】	参集型の対面演習(6日間)【豊岡短期大学 会場】
<b>9/28(土)</b> 10:45-12:15 「貧困に対する支援」 <b>10/5(土)</b> 9:00-10:30 「教育」 14:00-15:30 「保育」 16:00-17:30 「こどもの身体的発達等、母子保健と小児医療の基礎」 <b>10/19(土)</b> 9:00-10:30 「こども家庭福祉Ⅰ(こども家庭をとりまく環境と支援)」 10:45-12:15 「こどもの心理的発達と心理的支援」 16:00-17:30 「少年非行」 <b>11/2(土)</b> 13:00-16:00 「児童虐待の理解①」 16:15-17:45 「こども家庭福祉Ⅳ(行政の役割と法制度)」 <b>11/9(土)</b> 13:00-16:00 「こども家庭福祉Ⅲ(精神保健の課題と支援)」 16:15-17:45 「児童虐待の理解②」 <b>12/7(土)</b> 13:00-17:30 「こども家庭福祉とソーシャルワークⅣ(組織の運営管理)」	<b>12/20(金)</b> 10:30-17:30 「こども家庭福祉分野のSW専門職の役割」 <b>12/21(土)</b> 9:00-17:30 「こどもの権利擁護」 <b>12/22(日)</b> 9:00-17:30 「こども家庭福祉とSWⅠ(多様なニーズをもつこどもや家庭へのソーシャルワーク)」 <b>12/23(月)</b> 9:00-17:30 「こども家庭福祉とSWⅡ(こどもの安全確保を目的とした緊急的な対応に関するソーシャルワーク)」 <b>12/24(火)</b> 9:00-17:30 「こども家庭福祉とSWⅢ(地域を基盤とした多職種・多機関連携による包括的支援体制の構築)」 <b>12/25(水)</b> 9:00-12:00 「こども家庭福祉Ⅱ(保護者や家族の理解)」 13:00-17:30 「社会的養護と自立支援」

### 3. 改善点や検討すべき点

#### <対面授業の環境整備>

- ・会場のキャパシティー：グループワークを行う際に全員が動くことができないなど

の問題が生じた。交流スペースも含めると受講生が着席するスペースの 1.5 倍の広さが必要。

- ・人数：対面演習は 40 名に対して講師 1 名以上の要件であったが、対面演習でも 18

名~20 名程度が対面授業をスムーズに行うには適正人数ではないか。

#### <実施方式>

- ・必ずしも近くに居住している方が受講しているわけではなく、日程で受講会場を選

んでいるケースや、遠くても早稲田大学会場で受けたいというケースがみられた。

- ・日程については、年度始めの 4 月には開示できているとよい。

#### <その他>

- ・Zoom でのオンライン演習の 4.5 時間科目は、集中力の持続と学びの効果の観点か

ら、対面方式とするか検討が必要。

- ・演習で取り扱う事例が類似してしまう科目があった。

- ・受講生の様々な背景や職業経験を鑑みて、共通する本質的（子どもの権利）なテーマ

を扱う事例を使う演習にするなどの工夫が必要。

## 第3章 こども家庭ソーシャルワーカー養成研修の評価

### 1. 問題と目的

#### 1.1 問題と背景

早稲田大学こども家庭福祉プロジェクトではこれまで、自治体や民間機関と協働し、子どもの最善の利益に資する社会的養育システムの構築に向け、調査研究やプログラムの開発・導入に取り組んできた。2024年度には、西日本こども研修センターあかし、一陽（児童家庭支援センター）、徳島文理大学、豊岡短期大学と協働して「こども家庭ソーシャルワーカー」認定資格の指定研修（講義、演習）を実施した。

本研究では、指定研修の参加者（社会福祉の実務経験者）を対象として、研修プログラムの効果検証を行った。具体的には、プログラム実施前、実施直後に参加者に対して質問紙調査（研究1）およびインタビュー調査（研究2）を行った。なお今後、研修終了後に資格を取得した参加者を対象に、フォローアップのインタビュー調査を行う予定である（研究3）。

#### 1.2 本研究の目的

本研究の目的は、①研修プログラムが参加者の専門性の向上にどのように影響するかを検討すること、②翌年度以降のプログラムの内容にどのような修正が必要かを評価す



ること、③研修を構成する科目や時間数といった枠組みについて検証し、プログラムの精緻化を目指すこと、④研修に参加した資格取得者を対象にフォローアップの調査を行い、中長期的な視点で評価を行うこと、の4点である。

データはすべて個人が特定されないよう匿名化し、個人情報の取り扱いに留意した。

## **2. 実施内容**

### **2.1 研究倫理審査受審**

研究実施前に、早稲田大学「人を対象とする研究に関する倫理審査」の承認を得た（承認番号：2024-164）。

### **2.2 研究1**

研修の実施前後（2024年8月～2025年1月）にインターネット媒体を用いてアンケート調査を実施した。回答協力者（以下協力者）は研修前後ともに57名だった。質問内容は、資格の取得理由、研修への期待や不安（自由記述）、各演習形式の満足度、内容の理解度、知識・興味・関心の高まり（5件法評価）、研修の良かった点や改善点（自由記述）などである。また、専門性に関する自己評価（5件法評価）を尋ねた。

### **2.3 研究2**

研修修了後（2025 年 2 月～2025 年 3 月）に 1 時間半程度の半構造化面接を実施し、受講理由や研修の感想、要望・改善点、自身の専門性の変化などを尋ねた。協力者は 20 名。協力者の許可を得た上で録音し、逐語記録を作成し、カテゴリー化を行った。

### 3. 実施体制

本研究は以下のメンバーにより実施された。氏名前の○は、本報告書の責任著者を示す。所属は、2025 年 8 月現在のものである。

上鹿渡 和宏（早稲田大学人間科学学術院 教授）

○ 木村 能成（早稲田大学人間科学学術院人間総合研究センター 客員次席研究員）

宮本 雄司（早稲田大学人間科学学術院人間総合研究センター 主任研究員）

那須 里絵（早稲田大学社会的養育研究所 次席研究員）

### 4. 結果

#### 4.1 研究 1

##### 4.1.1 受講会場について

研修実施前アンケート及び研修実施後アンケートにおける、協力者の受講会場の内訳を以下の図 1、図 2 に示した。

#### 4. 1. 2 協力者の年齢層について

研修実施前アンケート及び研修実施後アンケートにおける、協力者の年齢の内訳を以下の図 3、図 4 に示した。

#### 4.1.3 協力者の現在の職務

研修実施前アンケート及び研修実施後アンケートにおける、協力者の現在の職務の内訳を以下の図 5、図 6 に示した。

#### 4. 1. 4 協力者の保有資格

研修実施前アンケート及び研修実施後アンケートにおける、協力者の保有資格（複数回答可）の内訳を以下の図 7、図 8 に示した。

#### 4. 1. 5 協力者の現在の雇用形態

研修実施前アンケート及び研修実施後アンケートにおける、協力者の現在の雇用形態の内訳を以下の図 9、図 10 に示した。

#### 4.1.6 協力者の専門職としての経験年数

研修実施前アンケート及び研修実施後アンケートにおける、協力者の専門職としての経験年数の内訳を以下の図 11、図 12 に示した。

#### 4. 1. 7 研修実施前アンケートにおける自由記述項目より

##### 4. 1. 7. 1 資格取得理由について

こども家庭ソーシャルワーカー認定資格の取得理由について、自由記述による回答を求めたところ、以下のような回答が得られた。

##### ①自己研鑽・専門性向上

回答例：「自分のケースワークの見直し」「自己研鑽」「スキルアップ」「連携先の担当者



の専門性を理解し適切な連携ができるようになりたい」「児童分野について専門的に学んだ経験がないまま、医療的ケア児の支援や要対協ケースの支援をしているため、改めて学び直したかった」

#### ② ネットワークづくり

回答例：「実践者としてのつながり（仲間）ができることを期待したため」

### 4.1.7.2 指定研修プログラムに期待すること

指定研修プログラムに期待することとして、自由記述による回答を求めたところ、以下のような回答が得られた。

#### ① 専門技能の向上

回答例：「専門技能の向上とネットワークづくり」「支援に根拠を持たせられるようになること」

#### ② 基盤となる価値観・考え方の獲得

回答例：「技術的なことよりも、その基盤となる考え方や価値といったことを改めて考えるきっかけとなれば」「何気なく使っている言葉を改めて問い直す。例えば『最善の利益』とはどういうことか」

### 4.1.7.3 受講に際し不安なこと

研修プログラム受講に際し、不安なことについて、自由記述による回答を求めたところ、以下のような回答が得られた。

① 補講

回答例：「補講がないので、緊急対応や不慮の事故の場合、受講できなくなってしまうこと」

② 金銭的負担

回答例：「〇〇市から児童家庭支援センターに対し、資格取得、資格取得者の配置に対しての補助がないこと」

#### 4.1.8 研修への満足度

研修への満足度を測定するため、「演習形式ごとの満足度」および、「本研修を同僚に勧めるかどうか」を尋ねた。結果を以下の図 13、図 14、図 15、図 16 に示した。



#### 4.1.9 専門性の変化

研修による専門性の変化について検討するため、「知識・理解」「支援における自信」

それぞれの観点から回答を求めた。

#### 4.1.9.1 専門性の変化（知識・理解）

専門性の変化（知識・理解）について測定するため、「子どもの最善の利益」「子どもの権利擁護」「社会正義」「各種制度」「実践に関する知識」について自己評価を尋ねた（5件法）。結果を以下の図 17、図 18、図 19、図 20、図 21 に示した。



#### 4.1.9.2 専門性の変化（支援における自信）

専門性の変化（支援に関する自信）について測定するため、「インテーク」「ラポール」

「アセスメント」「プランニング」「プランの実行」「モニタリング」「終結」についての自己評価を尋ねた（5 件法）。結果を以下の図 22、図 23、図 24、図 25、図 26、図 27、図 28 に示した。







#### 4. 1. 10 研修実施後アンケートにおける自由記述項目より

##### 4. 1. 10. 1 研修の良かった点

研修プログラムの良かった点について、自由記述による回答を求めたところ、以下のような回答が得られた。

##### ① 講師のスタンス、授業の方針

回答例：「小手先の試験対策ではないところ。早稲田はこうでないと！と思った。支援者としてのスタンスを学べた」

##### ② 会場・スタッフの雰囲気

回答例：「運営の人たちが温かい雰囲気だった。ぜひ皆さんに伝えてください」

##### ③ 授業の特色

回答例：「ライフストーリーワークをもっと勉強したい」「当事者の話を聞いたことは大きかった」

#### ⑤ 対面演習の充実

回答例：「直接会うことで、他の受講生から感化されることがたくさんありました。これは、オンラインでは得られないものだと思います。ぜひ続けてください」

#### ④ 時間配分

回答例：「対面演習、オンラインライブ演習、オンデマンドの割合が適切だった」

### 4. 1. 10. 2 要望・改善点

研修プログラムへの要望・改善点について、自由記述による回答を求めたところ、以下のような回答が見られた。

#### ① 試験対策

回答例：「試験対策もあると良い」「追加研修を有料で開催してはどうか」

#### ② 卒後研修ネットワーク・フォローアップ研修

回答例：「卒後研修や同窓会を用意してほしい。ここでつながった人たちと今後も関係を続けていきたい。」

#### ③ 設備・教材

回答例：「もっと広い教室だとよかった」「PDF で事前に資料がほしかった（特にオン

デマンド講義)」

④ 費用補助、支援の必要性

回答例：「後輩に勧めたいが、費用がかかるので勧めづらい」

⑤ 科目や時間数について

回答例：「里親ソーシャルワークに関する深掘り」「『母子保健』はもっと勉強しないといけないと思った」「緊急介入的な流れ、リービングケア、家庭復帰についての科目がなかった」「虐待を受けた子ども、無差別的な愛着行動を示す子どもと、防衛的な対応を示す子どもへのアプローチとその後の支援があったらよかった」

## 4.2 研究2

### 4.2.1 研修の参加理由

「研修への参加理由」を尋ねたところ、以下のような回答が得られた。

① 講師陣の魅力

回答例：「講師陣を見て、ここしかないと思った」

② 対面演習の重視

回答例：「つながりを作りたかったので、完全オンラインよりも、対面が多い方がよかった」

③ 研修機関への信頼

回答例：「いい理由ではないかもしれませんが、早稲田というブランドが良かった。

早稲田で勉強しました！と言いたかった」「本気の研修を用意してそうだった」

#### 4.2.2 研修の感想

研修の感想について、演習形式ごとに尋ねたところ、以下のような回答が得られた。

##### ① 対面演習の充実

回答例：「対面演習では皆さんの意欲に圧倒された。資格を取るというよりも、学びたいという意欲を感じた」「対面の方は講師の方と話ができた。受講者同士も同じ教室に  
いるので、雰囲気はよく、リラックスができた」

##### ② 多様な参加者との協働

回答例：「様々な機関から多様な背景を持った受講者が集まり、演習に取り組むことができて良かった。」「ロールプレイの授業では、兎相の立場でケース会議を進めた。普段の業務では兎相さん！もっとしっかりして！と思ったが、兎相って大変だなと思った」  
「ベテラン同士でのグループディスカッションの面白かったこととして、答えをまとめようとする気がないっていうのがありました。自分を曲げる気がないんですね。いい意味で迎合する気がない。通常はグループの意見をまとめようとするけれども、それが無いのがよかった。まとめようと躍起になるかなと思っていたけれど、そんな気もない自分に対する驚き、気づきがあった。相手の意見は受け入れるけれども、それで自分が揺

らぐことはないというのは、専門家としての一つのあり方だと思って、発見でした」

### ③ 講師陣の魅力

回答例：「講師は、実務に即した話をしてくれた。試験のこととはあまり関係がなかったが、一つ一つ考えられていた」「先生方の話が面白い」

## 4.2.3 自身の専門性の変化

### ① 知識や理解の深化

回答例：「新しい最新の知識がバージョンアップできた」「新しい知識を土台に、自分の発言に自信を持つことができるようになった」「子どもの意見が大事ということと言われてはいたが、なぜ大事なのかということや、法律的な背景があらためて確認できた」

### ② 実践における自信

回答例：「職場の同僚や、自分の上司と話をするときに、自分の考えについて『こういう根拠でこう言っています』と言えるようになった。対等に話ができるようになった」

### ③ 子どもの権利やパーマネンシーに関する学び

回答例：「子どもの権利条約は大きなテーマだった。研修を受けてから自分自身、子どもの人権ということを意識するようになった」「日常生活においても子どもの人権を守れているか、尊重できているんだろうかと考えるようになった」「どういうふうになったらいいか、言葉にするのは子どもはかなり難しい。どういうふうに言語化するか、言

語化する必要があるかが今後の課題。子どもの意見を吸い上げていく、理解していく、代弁していくプロセスをこちらが把握するにあたって、ケーススタディをたくさん勉強しないといけないと思った」

#### ④ ネットワークの構築

回答例：「うちではこう言うことをやっていますと言うことを共有できた。施設外の人たちと関係ができて嬉しかった」

### 4.2.4 要望・改善点

#### ① 資料の事前配布

回答例：「PDF だけでもあるといい」「ノートを取りながら講義を聞くのはかなり大変なので、資料があるとありがたいです」

#### ② 試験対策

回答例：「すごく勉強になったが、この内容は試験では扱わないだろうと思った。法律や制度はわかりやすい」「演習の目的や趣旨の説明がもう少しあると良かった。これはテストに結びつくのか？実務的な内容なのか？」

#### ③ フォローアップ研修の求め

回答例：「資格取得後のフォローアップ研修をやってほしい」「ここで出会った人たちと定期的に集まれるような場が欲しい」



#### ④ スケジュールのタイトさ

回答例：「申し込みからの期間、対面演習に向かうまでのスケジュールがもう少し余裕があると良かった」

### 5. 考察・まとめ

本研修プログラムの実施結果から、参加者の専門性向上、価値観の深まり、多職種ネットワークの形成において顕著な効果が確認された。特に、「子どもの最善の利益」「子どもの権利擁護」「社会正義」などの基盤的理念に関する理解や、制度・実践知識に関する自己評価が全般的に向上しており、支援のプロセス全般（インテークから終結まで）における自信の高まりも認められた。また、インタビュー調査では、最新の知識の習得や、根拠に基づいた発言力の向上、職場での対等な議論の実現といった具体的な変化が報告された。

加えて、本研修は単なる技術の習得に留まらず、支援者としての姿勢や倫理観を再確認する場としても機能していた。参加者は「価値観を問い直す機会になった」「試験対策ではなく支援者のスタンスを学べた」と評価しており、この点は本研修の特色として今後も継続していくべきである。また、対面演習を通じた多様な職種・機関間での交流は、相互理解を促進する機会となっていたことが明らかになった。

一方で、改善すべき課題も明らかとなった。第一に、オンデマンド講義や演習におけ

る事前資料配布の不足が学習効率を妨げている可能性があり、PDF ファイルなどによる資料等の提供が求められると考えられる。第二に、カリキュラム内容に関して、「里親ソーシャルワーク」「緊急介入・リービングケア」「家庭復帰支援」など、実践におけるニーズに直結するテーマの不足が指摘された。第三に、研修スケジュールがタイトであり、特に対面演習までの準備期間の短さが負担となっていると考えられた。さらに、研修内容の充実を評価する参加者が多数である一方、試験内容・範囲との乖離を感じる受講者もあり、本研修の目的と試験対策とのバランス調整が課題である。

また、資格取得後の学びや、研修によって得られたネットワークを継続的に維持したいという要望が強く、卒後研修やフォローアップ研修の提供、定期的な交流機会の創出が必要と考えられる。加えて、一部の自治体では資格取得や配置に対する補助制度がなく、経済的負担が受講促進の障壁となっている点も挙げられる。

今後は、フォローアップ調査を通じた中長期的効果の検証、講師陣が参加者に伝えた内容と、試験対策を両立させたカリキュラムの精緻化、対面・オンラインライブ演習・オンデマンド講義の特性を活かした学修環境の整備、自治体との連携による受講促進策の構築、そして専門職間ネットワークの持続的運営が求められる。

本研究を通じて、参加者の知識・理解、支援における自信、支援者としての価値観の再確認、さらには多職種間ネットワークの形成といった多面的な成果が確認されたことは、単なる資格取得を超えて現場での実践の向上に資するものである。一方で、教材や

資料の提供方法や、試験対策の位置づけ、カリキュラムの特定分野不足、研修スケジュールの余裕、資格取得後のフォローアップの機会、費用負担の軽減といった課題は、今後のプログラム改善において検討すべき事項である。

今後は、こうした成果と課題を踏まえ、中長期的な研修の効果の検証、不足分野の補強、学修環境の整備、受講促進のための制度的支援、そして卒後も持続する専門職ネットワークの構築を目指すことが求められる。

## 謝辞

本研究の実施にあたり、ご多忙の中、アンケート調査およびインタビュー調査にご協力くださいました研修参加者の皆様に、心より感謝申し上げます。